

『史記』を読む

3月2日
受付開始

れんぱ

りんしょうじょ

廉頗と藺相如

皆さんは「完璧」という言葉をご存知ですね。なぜ「壁」でなく「璧」と書くのでしょうか。これは『史記』巻八十一「廉頗藺相如列伝」に出てくる宝玉に関する話から生まれた言葉なのです。また「その人のためなら首を切られても後悔しない友情」のことを「刎頸の交わり」といいますが、これもこの列伝の二人の友情から生まれた言葉です。さあ、一緒に緊張感あふれる司馬遷の名文を読んでみましょう。

(令和8年) 5月7日・14日・28日

木曜 全3回 14:00~15:30

全3回分受講料 1,500円 (税・資料代込み)



講師 かげやまてるくに
影山輝國 氏
(実践女子大学名誉教授)

<プロフィール>

1949年生まれ。東京大学大学院中国哲学専門課程修了後、東京大学教養学部助手、実践女子大学文学部教授を経て、実践女子大学名誉教授。日本にだけ残った『論語』注釈書である『論語義疏(ろんごぎそ)』研究の第一人者。著書に『「論語」と孔子の生涯(中公叢書)』、『倭国伝』(講談社学術文庫)、『新明解現代漢和辞典』(三省堂)等がある。

1

かんぺききちょう
完璧帰趙

秦が和氏(かし)の璧をよこせと趙に要求

2

めんち
灑地の会

秦王が趙王を侮辱しようとするが…

3

ふんけい
刎頸の交わり

藺相如と廉頗との有名な友情

【会場・お問合せ】

あげお富士住建ホール
(上尾市文化センター)

☎ 048-774-2951 (9:00~18:00)

住所 上尾市二ツ宮750 (JR高崎線「上尾駅」東口から徒歩15分)

【主催】 あげお文化創造パートナーズ